



4月上旬の低温等で生育は昨年より5日程度遅れている状況です。開花期の低温遭遇が心配されますので、防霜対策は万全にしてください。また、薬剤散布は生育状況をよく確認のうえ適期に実施してください。

## りんご薬剤摘果講習会開催について

\*都合の良い時間帯・最寄りの会場へお越しください。

### 1. 開催概要

月日	時間	集合場所
5月8日(水)	午前10時	南部共選所
	午前11時	高丘事業所前
	午後2時	平岡共選所前
5月9日(木)	午前9時	長丘事業所前
	午前11時	高社共選所前
	午後2時	倭選果所前

### 2. 内容

- ① 薬剤摘果(マイクロデナポン散布)の実施時期について
- ② 黒星病対策・葉面散布資材の活用方法他

## りんご薬剤摘果について(参考)

### 1. 使用薬剤

- **マイクロデナポン水和剤 85 登録内容** ⇒ 使用目的:摘果・使用基準:満開後1~4週間後・1,200倍・2回まで
- 効果発現を高めるため、基本的には単剤で散布してください。
- 極端に着果量が不足している場合は薬剤摘果は行わないようにしてください。

水	100 <sup>リットル</sup>	500 <sup>リットル</sup>	600 <sup>リットル</sup>	1,000 <sup>リットル</sup>
アプローチBI(333倍)	300ml	1500ml	1800ml	3000ml
劇)マイクロデナポン水和剤85(1200倍)	83g	415g	498g	830g

### 注意事項

- ① 展着剤:アプローチBIに代えて、ニーズ1000倍でもよい。
- ② マイクロデナポン(水)は果皮、果柄や果台から発生した新梢(葉)から多く吸収される。よって、果実及び花そう葉に十分かかるように散布する。
- ③ 散布量が少ないと効果が落ちる場合があるので、多めに設定する。
- ④ 結実が悪い園、毎年生理落果の多い樹や園、極端に樹勢が弱い樹、強い樹は散布しない。
- ⑤ マイクロデナポン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。

### 2. 散布時期

- ① **満開2週間後目安** ⇒ 本年は 5/12~15頃
- ② 中心果の横径が10~12mm程度 ⇒ 測定位置:目通りの高さ
- ③ ふじは生理落果の少ない品種なので最も落果の多くなるタイミングで散布する。
- ④ この時期の果実は0.5~0.7mm程度1日肥大する。(10日間で約5mm~7mm伸びる)

次ページもお読みください。(ももせん孔病対策等、記載)

# せん孔細菌病 多発注意

昨年の秋、台風襲来が多かった事から、越冬菌の量も多いと予想されます。

昨年、せん孔細菌病が発生した園地は、下記を参考に、総合的な防除を徹底して下さい。

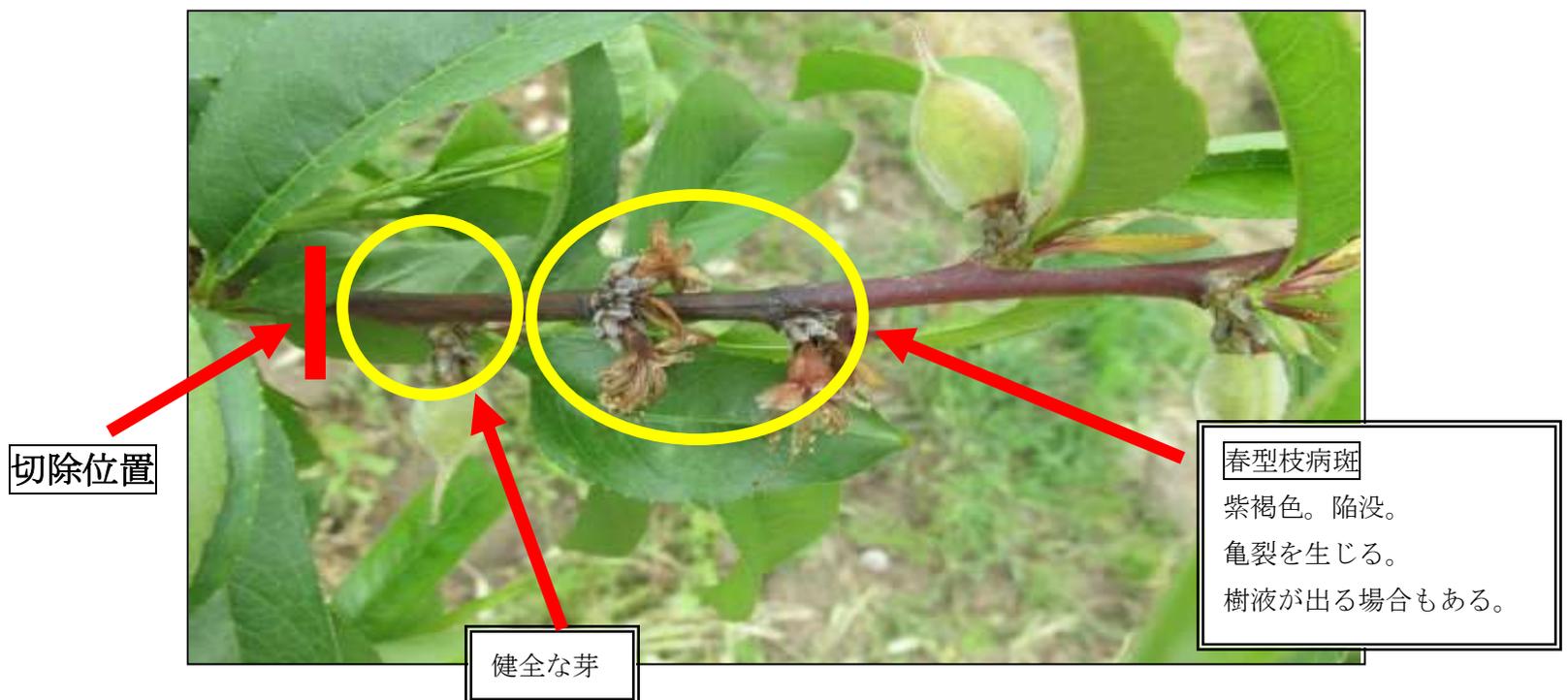
特に、春型枝病斑の切除は必ず実施して下さい。

## ① 春型枝病斑を10日間に1回、切除する (この作業を徹底しない限り、菌密度は減りません)

時期 : 開花期～5月下旬 (潜伏している枝病斑が、およそ10日間隔で発現します)

方法 : 枝病斑を見つけ次第、切除する。

\*切除位置は、病斑部ギリギリではなく、病斑よりも元にある健全な芽を1つ含めて切る。



↓先枯れ症状 (疑わしき枝) も徹底的に除去しましょう！



## ② 薬剤の散布間隔は10日以内とする (予防散布を継続する)

\*薬剤散布による防除 (殺菌剤) は、あくまでも予防です。感染した後の治療効果は期待できません。  
降雨前の予防散布を徹底してください。

## ③ 「樹上かん水 (畑灌)」は可能な範囲で止める

\*樹上かん水 (特に夜間散水) の影響で、感染が拡大する恐れがあります。

結実の良い品種は、摘蕾・摘花を実施し、大玉生産を目指しましょう！